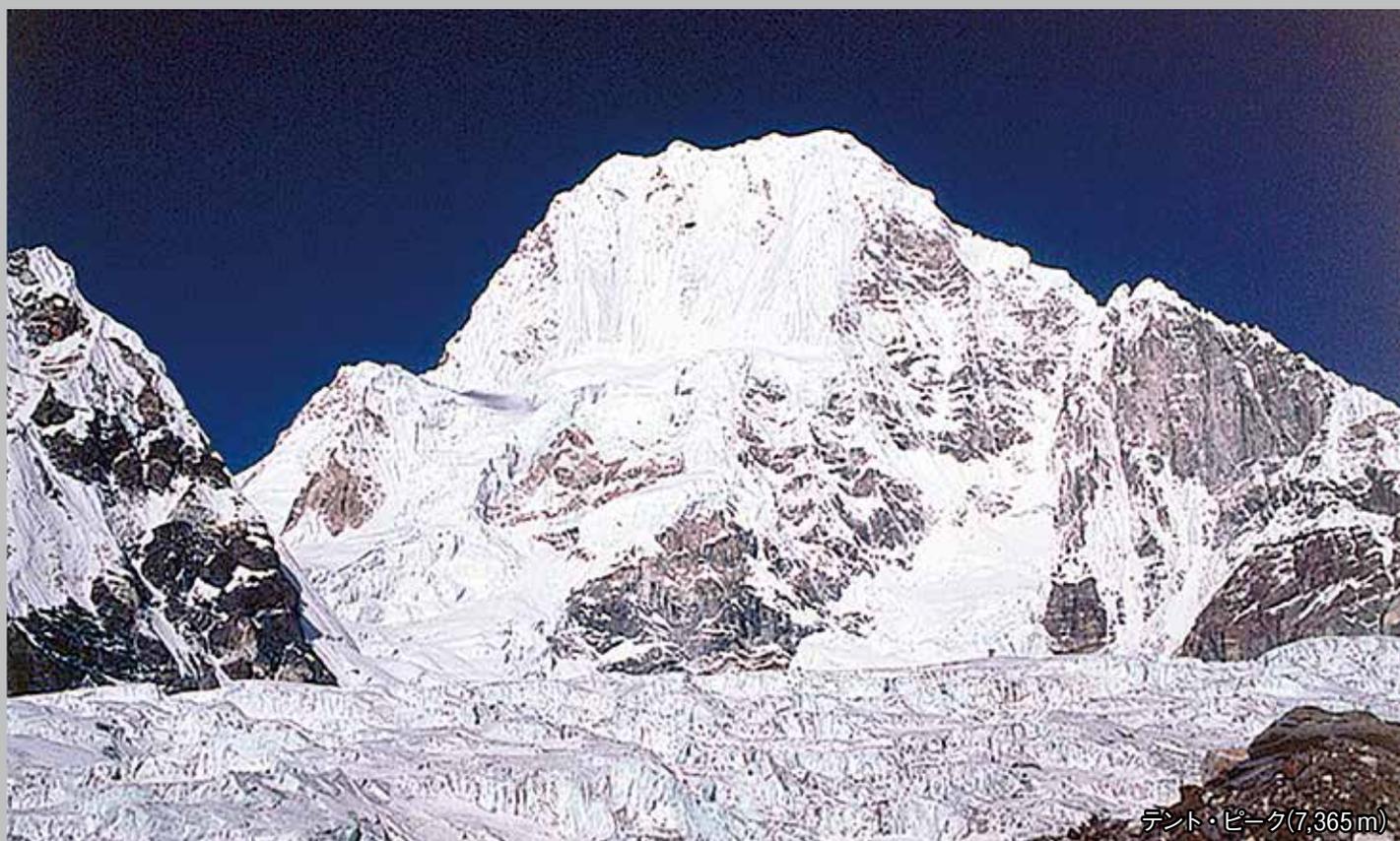


登山月報



デント・ピーク(7,365m)



8月11日 みんなで山を考えよう!
祝「山の日」
 全国「山の日」協議会
 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

コンバインドジャパンカップ2019開催	2
第128回 Mountain World	4
新連載 『日山協と私』	5
山岳事故から浮かび上がった日本列島	7
令和元(2019)年度定時総会報告	8
令和元年度第1回理事会報告	9
令和元年度第2回理事会報告	10
JMSCA、寄贈図書、表紙のことば、編集後記	12



スポーツ振興基金助成事業
日本山岳連盟主催

コンバインドジャパンカップ2019開催

5月25日(土)、26日(日)第2回コンバインドジャパンカップを愛媛県西条市の石鎚クライミングパークで開催した。各ジャパンカップ(Speed、Bouldering、Lead)を勝ち抜いてきた精鋭が、8月に八王子で行われる世界選手権の出場枠を目指して戦いを繰り広げた。天気は、夏日となり熱中症が心配されたが会場は満杯となり選手のパフォーマンスは大いに盛り上がった。

chart ① 決勝男子成績

RANK	POINT	LEAD	rank	BOULDER	rank	SPEED	rank	Quality
1	6	35+	2	2T3z45	3	6.291	1	3
2	12	Top	1	2T3z24	2	fall	6	1
3	36	35+	3	1T2z49	6	6.475	2	2
4	40	34	5	3T3z55	1	7.273	8	5
5	72	34	6	2T3z45	4	6.680	3	6
6	80	34+	4	1T2z25	5	8.263	4	4
7	280	31+	7	0T1z05	8	6.798	5	7
8	392	25+	8	1T2z79	7	7.062	7	8

男子は、昨年優勝した榎崎智垂がスピードで1位、ボルダリング3位、リード2位と安定した成績で2連覇。スピードは、安定して6秒台をたたき出す選手が増えてきておりレベルアップを感じる。ボルダリングは、予選から調子のいい原田海が第1課題を1撃し、好調な滑り出しだったが、スピード最下位の土肥圭太が唯一の3完登で1位となり上位に躍進。そして、最終種目のリードは原田が完登、8番目の榎崎は大きなミスがなければ優勝が見える状況、確実な登りで最終ホール



ドにタッチするが押さえきれず35+でリードは2位となった。スピードの後、ボルダリングで順位が入れ替わるなど最後のリードまで混戦の状況だった。

chart ② 決勝女子成績

RANK	POINT	LEAD	rank	BOULDER	rank	SPEED	rank	Quality
1	7	35+	7	2T3z23	1	8.790	1	1
2	12	46+	2	2T3z68	2	10.097	3	4
3	12	Top	1	1T3z111	3	12.018	4	3
4	72	46+	3	0T2z03	4	12.781	6	5
5	128	30	8	0T1z08	8	10.820	2	7
6	150	38	6	0T2z09	5	10.075	5	2
7	210	39+	5	0T1z01	6	11.682	7	8
8	224	39+	4	0T1z04	7	11.760	8	6

女子決勝では、スピード、ボルダリング1位の野中生萌がリードで7位であったが、安定して上位にいた野口啓代を退けて総合1位を獲得。コンバインド初優勝を勝ち取る。スピードは、8秒代を安定して出せる野中の独壇場。ボルダリングは、野中、野口が2完登で世界の實力を示す。そのような中、森秋彩が第3課題を完登。サイズ感やムーブが森にマッチしている課題に感じたが見事なパフォーマンスであった。さらにその勢いは、リードでも見られ、唯一の完登。結果、野中1位、野口2位に次いで総合3位を獲得する。逆に、伊藤ふたばはスピードでフォールする場面もあり出遅れる。そのあとのボルダリング、リードでいつもの冴えが見られず6位に終わった。



運営：

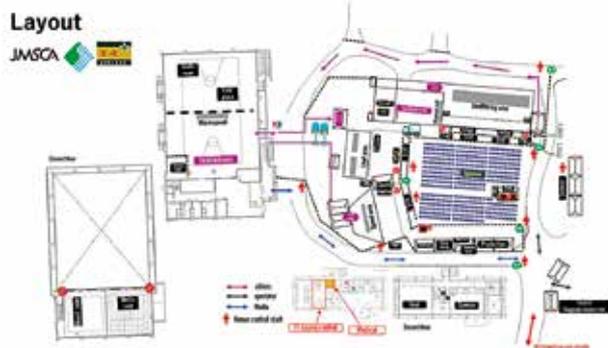
今回の会場は、施設が充実しておりコンパクト（下記参照）にまとまっている。選定理由の一つであるが、非常に効率よく運営できた。

- 競技壁が同一エリアに設置→既存施設で運営
- 諸室が充実→効率化

ウォームアップエリア（体育館）

運営諸室（本部、メディア、VIP、医療、AD）

picture ① 会場図



悪天を考えれば、理想はすべて屋内であるが外での開催は、隣で地元のマルシェの開催もありイベントの雰囲気があって良かったと感じる。ただ、天候が夏日となり会場へのアナウンス（水分補給、体調管理）に注力はした。WGBT 28℃前後であったが風もありトラブルはほとんどなかった。ニュースでは日本全国、高温であり他のイベントでの熱中症が取り上げられていたが、問題なく終えることができた。

また、今回は医療よりBMIの測定（決勝進出）を行っている。選手の生涯に向けた健康管理を行うことも競技団体として必要なこと。

マーケティング：

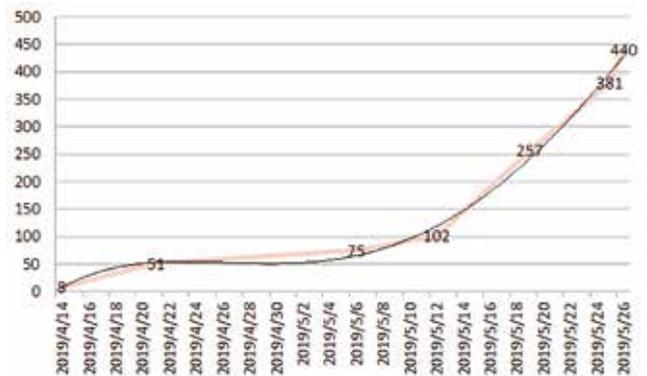
今回、決勝の日を有料（大人 前売2000円、当日2500円）とした。会場に用意した席は500席だが、ほぼ完売に近く、オリンピック種目であるコンバインドへの興味を感じた。

観戦者は、選手関係の方もいるが全国25都道府県から来場。そのうち愛媛が70%でさすが開催県。四国全体で79%となった。次に多いのが東京の6%で、思った以上に全国から観戦者が訪れた。

来場数

	25日	26日
選手	男20女19	男8女8
観客	350	485
VIP	8	13
視察	8	8
メディア	56	72
その他	24	
合計	461	618

graph ① チケット販売



クリッピング（25日～27日）については以下の露出があった。地方での開催であるが、WC並みの反響と感じた。

- 新聞23社掲載
- テレビ19番組
- Web72ページ

今回コンバインドジャパンカップは、昨年の盛岡に続き2回目であるが、世界選手権につながる大会であり、選手の高いパフォーマンスと観戦者の応援で大いに盛り上がりました。来年のCJCは、オリンピックを控えさらに大きな意味を持つ大会となります。各ステークホルダー（選手、観戦者、スポンサー、メディア）がより満足できる大会にしたいと思います。

最後に開催にあたり、ご協力いただきました西条市、スタッフ、スポンサーをはじめ関わった皆様には心より感謝いたします。ありがとうございました。

（記 実行委員長 村岡正己）



←大会PV

左のQRコードからご覧いただけます。

世界遺産グランドキャニオンの谷底までを歩いて往復する充実の旅

世界遺産グランドキャニオン 谷底往復トレッキング 8日間

発着地 東京	出発日 10/13(日)	旅行代金 526,000円
------------------	------------------------	-------------------------

※燃油サーチャージ(2019年6月20日現在:目安約28,000円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号 / 日本旅行業協会正会員 / ボンド保証会員

アルパインツアー株式会社

本社 〒105-0004 東京都港区新橋3-2-5(第5東洋海事ビル4階) ☎03-3503-1911
 大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557
 e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

エヴェレスト遭難は渋滞が原因？

池田常道

この春、エヴェレストの登頂者数は、史上最高の885名を数えた。内訳はネパール側644名、チベット側241名。遭難死も11名（ネパール側9名、チベット側2名）に及んだ。アイスフォールでセラックが崩壊した2014年の16名、ネパール大地震に誘発された雪崩（2015年）19名に次ぐ数字だが、この2回は登山そのものが中止になったから、ウェスタン・クウムより上部で亡くなった例はない。頂上からサウス・コルの間で亡くなったのは、1996年にロブ・ホールらの公募隊が相次いで死者を出した年を3名上回る。

今季エヴェレストの登山許可を取得した外国人登山者はネパール側だけで381名。2017年の368名、18年の346名を若干上回った。ところが最近の傾向として、従来5月初めまでに完成していた頂上へのルート工作が遅れぎみだったのに加え、インド洋を北上したサイクロンがそれに輪をかけ、登頂は5月14日までずれ込んだ。おまけに、昨年のように好天が長続きしなかったために、限られたチャンスの16日～17日と22日～23日に登山者が殺到した。これに、登山者に同行したシェルパ（642名）が頂上を目指したわけだから、混雑ぶりは想像に難くない。5月22日に、退役グルカ兵ニルマル・プルジャが撮った頂上直下の大行列のショットが、現代のエヴェレストを象徴するものとして、欧米の主要メディアにこぞって掲載された。

下りてくる登山者と遅れて頂上に向かう登山者が交錯して生まれる渋滞は南東稜中段のバルコニーから始まり、頂上まで途切れることなく続いたという。渋滞に引っかかってしまえば、登るに登れず降りるに下りられず、2時間以上待機を余儀なくされた者も少なくない。よく「死の地帯」と呼ばれる高所に留まれば動いていない分きびしい寒気にさらされ、なによりも貴重な酸素を浪費してしまう。死者の多くは登頂したものの途中で倒れ、なんとかサウス・コルまで帰れても、そこで亡くなった。

避けがたい雪崩もなく、不意の嵐もなかった（ある意味恵まれた）シーズンにこれだけの犠牲者が出た。ネパール政府当局は、「渋滞は遭難の原因ではなく、登山者自身の実力不足や悪天候による」として、登山者

が殺到することの危険性を否定している。が、歩行速度も遅く登山経験も浅いクライアントが、酸素残量を適切に管理することなど期待できるだろうか。結局は、キャパシティを超える許可を出したネ政府、未熟な登山者を送り込んだ公募隊、世界最高峰に立ちたいという欲求に支配されたクライアント……がその責任を負うしかないのだろう。許可数を絞ったチベット側では渋滞も起こらず、犠牲者は2名に留まった。

登山規制は、これまでも何度か論議になってきた。90年代初めには、登山料値上げと同時に1隊5名以内（追加2名まで）と厳格化された。しかし、その後訪れた公募隊ブームのなかで、無制限に緩和する施策が採用されてきた結果、高所の渋滞が頻発して登山者を危険にさらすことになった。しかし、貴重な外貨収入源である登山料は、ネパール経済に深く食い込んでしまっている。

*

ところで、登頂者の集計は登山者本人や所属する公募隊オペレーターからの報告によるもの。登頂証明書を発行されていても、認められなかった例もある。

インドのナヒダ・マンズール（26）は5月22日頂上に立ち、カシミール州から初めての女性登頂と報告、登頂証明書を発行された。情報源はオペレーターのトランセンド・アドベンチャーで、同社は「シャラッド・クルカミというインド人が彼女の数m後ろを登っていて、最高点に立つのを目撃した」と公表したが、以後は自分のクライアントから注意ぶかく距離を置き、「彼女がどうして証明書を手に入れたかは知らない」と述べた。マンズールはフェイスブックで、頂上付近の渋滞で酸素の残量が少なくなったので同行シェルパはヒラリーステップで断念、彼の酸素ボンベをもらい、9時30分にひとりで登頂したと主張した。しかし、6月12日にネパールを再訪して観光省に提出した証拠は他人の写真にフォトショップで自分の姿を埋め込んだものだった。5月26日午前10時30分に登頂したと報告したのは、インドのヴィカス・ラナ（女性）と仲間の男性ショーバ・バンワラ、アンクシュ・カサナの3人で、頂上から2時間というスピードでBCまで帰ったという。しかし、彼らは同行シェルパの名前も言えず、証拠写真も提出できなかった。結局3人はC3（7150m）より上には行っていなかったことを認めた。同じ日に登ったというアラブ首長国連邦の登山者にも同じ疑いがあると指摘されている。



新連載 ～創立60周年に向けて～ (14)

『日山協と私』

公益社団法人東京山岳連盟 参与 関口 寿一

「日山協と私」とは？ と自分に問う。

日山協設立の主体要因は国体であった。日本体育協会の傘下団体として山岳競技会の主管団体となり日本国民体育大会山岳競技会と言う国の行事を成し得るために全国の山仲間が開催地に集合し、寝食を共にして知恵や労力を日夜惜しみなく提供した。開催地岳連が用意した山中のコースを駆け巡りチェック確認し、時には口角泡を飛ばしながら当該年の山岳競技実施要領を作る。こうした作業を開催前年から開催年の本大会まで数回をこなす。このエネルギーどこから出るのか？・・・国体は日本国の行事である。日の丸を背負っている事もあると思うが、山の仲間は登山という行為を通じ協力し物事（登頂を）を成し遂げるといふ事を当たり前のように共有しているのかも知れない。

主催する開催地市町村は日山協に大会運営のイロハや規則基準の解説・指導を要請し、全国の県山岳連盟（協会）は郷土の栄誉を担い天皇杯皇后杯の獲得のため一丸となって選手強化をして送り出す。

私が担当した時代では開催地は山中の町村が多い。全国から集まる選手・監督、大会役員、競技役員、協力隊（自衛隊）他、関係する人数は1000名を超え、開催地はこの大所帯をお年寄りから子供まで総出で出迎えて大会期間中は村中国体一色になる。村の郷土料理はその土地が育んだ文化だ。それらを婦人会の皆さんが作り選手監督や役員が集まる競技会場でふるまうし、子供たちは何回も練習した演技を開始式会場で披露するなど、我々は心の籠った歓待を受ける。一部の道路などは整備され山中の奥まで喜びに満ちる国体は日本国の大きな祭典だ。

本稿に寄せられる執筆者の多くが国体との関係を寄稿されているのを見ても如何に多くの方が国体にたずさわってきたか、頷ける。

私もその一人で、所属する都岳連から派遣されたのは36才の時、昭和58（1983）年第38回群馬大会が最初だった。後進に道を譲る平成15（2003）年第58回静岡大会まで21年に及び、現地に審判員や大会役員として赴く回数は17大会を数える。

そうした中、昭和63（1988）年に国体常任委員に任命された。地区別ブロック研修に赴き競技規則・基準の

改訂説明・当該年度実施要項の説明等を行い、また開催地での研修や本大会運営に参加し、微力を尽くして来た。

常任委員会定例会議の資料作成では時として毎日のように事務局に出向き作業したものだ。常任委員として配属された時、今日の国体の礎を創られた元専務理事の瀧島清さんから「国体常任委員は全国のパイプ役たれ」と指導された。私はこの言葉を常に胸に刻んで行動して来たと思う。

常務理事・国体常任委員長、現場での審判長や競技委員長のとときには故斎藤一男会長から会議やリハーサル大会、時として居酒屋でも厳しくも暖かいご指導を戴き、元委員長の島村光昭さん、前委員長の岡本安夫さんや常任委員の太田忠行さん、柴山勝士さんを始め常任委員の諸氏や全国の多くの山仲間にも助けられながら国体山岳競技会の一時期を背負ってきたと自負している。

審判員としての担当は登攀（R）競技に特化していて、現場では仲間意識が強く想い出深い大会は二つ程ある。

まずは第43回昭和63（1988）年京都大会、主任審判員で参加、二巡目の最初の大会だ。規則・基準が抜本的に改訂された大会だった。選手が3人から2人へ、ルートは1P、懸垂下降は無く競技難度は従来に比較し各段に難しくなり競技はシンプルになった。前例があればジャッジや運営の参考になり随分と助かるがそれは無い。後催の得手となるような運営をと我々は研修に研修を重ねて万全の態勢で臨んだ。結果は大過なく、やはり「準備良ければ結果良し」。

昨年、平成30（2018）年9月に京都の廣澤誠吉さんからRの同窓会をするから京都まで出向くよう案内が届いた。Rチームの30年ぶりの再会である。改めての自己紹介に若かりし頃のユニホーム姿が懐かしく重なる、30年の歳月は重いものだ、皺の寄った顔を寄せ合い近況を報告し時を忘れて語り合った。

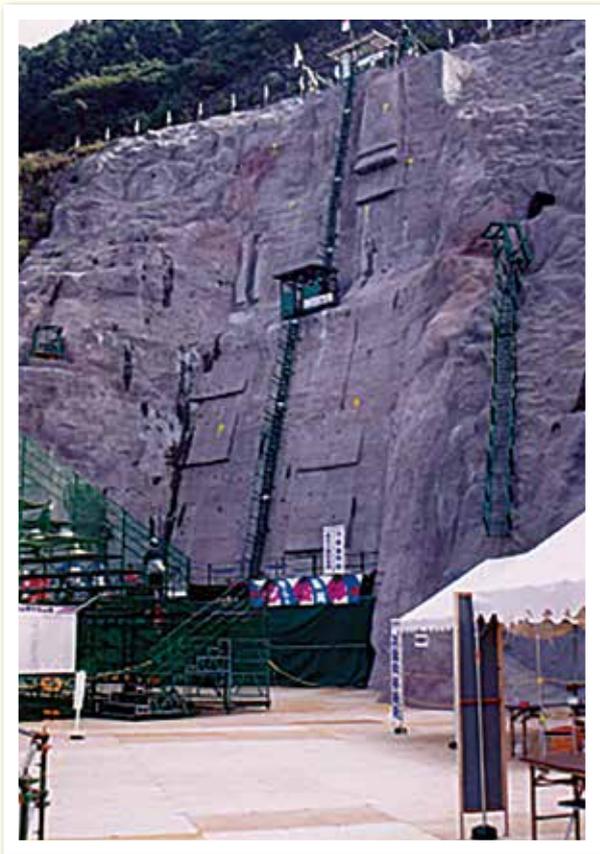
二つ目は第45回平成2（1990）年福岡大会である。主



表彰式で講評に向かう

任審判員として参加、前原の瑞梅寺ダムの石切場を造成し国体史上初めての人工壁を造ることになった。私はこの人工壁を創るのにもいつも岩壁登攀を共にしている会の寺内丈行君の助力を得て競技ルート2面にフェース・チムニー・カンテ・クラック・オーバーハングなど天然の岩場に即した形状を創りマスタープランとした。そして、京都の事例を参考にして国体R競技にふさわしいグレードにするべく細部にわたり難度を伴う具体的な形状や寸法を入れた。県の建設担当者がそれを基に施工図を作成し、専門の土木業者が施工した。それは石切場に重機が入り轟音と共に始まり、コンクリートには鉄筋を入れモルタルを吹き付けたりして描いた通りのR競技場は姿を見せ始める。しかし業者もこういう工事は初めてで具体的な施工は施工図面だけでは解らずより具体的な形状の質問が相次ぎ、私は壁いっぱいには巡らされた単管の足場を地下足袋で登り壁に移って「このホールドはこのような形状で指先の第1関節がかかるように」などと説明し協力を願った。工事は雨中でも休み無し、実に中途半端な仕事ではなかった。工事監理のため、必然的に現地へ赴く回数は多くなり、いつも力強い審判長の故坂場昭雄さんと共に機中の人となる。

人工壁も出来上がり、さあ本番だ。選手たちは人工壁やフェースに打った既成ホールドを使うためムーブが統一的に規制されてくる。従って各チームが同じ



前原・人工登攀壁



オープンバス2階貸切り

ホールドを使い競技しているうちに、満席となった観客席からはその点が良く理解され、苦勞している選手にはガンバレ〜と、上手く通過する選手には大きな拍手が飛んだ。実施本部前ではオーロラビジョンによる実況中継がありこちらでも選手の一挙手一投足に見入っていた。今ではクライミングボードは当たり前だが、当時は日本初の画期的なもので後催の国体登攀競技に大きな影響を与える事となった。

そして、審判長として参加した第47回平成4（1992）年の山形大会は、山仲間の絆を培うより一層の機会となり私の人生に大きな存在となって行く。それは今もお付き合いしている山仲間との出会いであった。

競技副委員長の山形岳連・清野孝さんが2月に天元台で行うスキー研修会の「吾妻に集う会」を。副審判長の青森岳連・境久孝さんは4月下旬に岩木山・八甲田山を滑降するスキーと弘前城の桜見物、盛り沢山の「みちのくツアー」を開催してくれた。奥様方や友人を連れて全国から集まった仲間は常に20人～30人の賑わいである。

本年2月も天元台に集まった。もう27回を数える。

東京界限在住の我々は太田忠行さんを長として、いつもお世話になりっぱなしの全国の山仲間へ何かお返しをするプランは無いかと思案。それは、我々も「灯台下暗し」である東京見物をしようと決まり「江戸文化を語る会」として一泊二日の日程で計画した。催しは墨田川に浮かぶ貸切った屋形船で、東京湾の夜景を見ながらの宴会や花火観賞、皇居（吹上御所）・国会議事堂の見学、国技館での大相撲見物、スカイツリー、浅草界隈の屋台で飲み会、天井のないオープンバスで都内をドライブなど、これも大盛況で不定期ながら6回を数えている。

私事であるが、昨年夏に我が岳嶺倶楽部や国体の仲間とともに半世紀を超える私の登山の歩みを「我が山歴」としてまとめた。その一部を加筆し本稿に寄せたが、改めて感じることは、つくづく国体を通じ全国に多く

の山仲間が出来た事を有難く大切に思う。

頭書の問いに戻る。日山協の組織を動かしているのは人である。それは国体を始め日山協の柱である幾つかの事業の中で、果敢にときには憂いながら活動している全国に情熱のある山仲間が大勢いる。

老婆心ながら中央の各委員はこの一人一人に目を向

け、この仲間達が日山協を構成している事実を見逃してはいけないと思う。主体は全国の山仲間でありその総意が日山協であると思うが、如何か。

絆は人生の宝物、全国の山仲間を想うとき、・・・日山協(にっさんきょう)か!!・・・実に響きが良い。

山岳事故から浮かび上がった日本列島

1) 山岳三団体による事故調査データベースの紹介

JMSCA 遭難対策委員会では、2001年より、日本勤労者山岳連盟、jRO と共同で、アンケートによる山岳事故調査を行い、山岳三団体による事故データベースを構築してまいりました。その趣旨は、2つの大きな目的があります。①軽度事故から重度事故まで、すべての事故に、一様に光を当て、その事故の要因、傾向、特徴などを調査・分析し、遭難対策を検討すること。

②遭難対策活動や安全登山指導を支える基礎資料とし、活動の信頼性を担保することです。

その活動成果は、今年で16回目となるJMSCAのホームページ「事故報告書」として、まとめられ、公開されています。

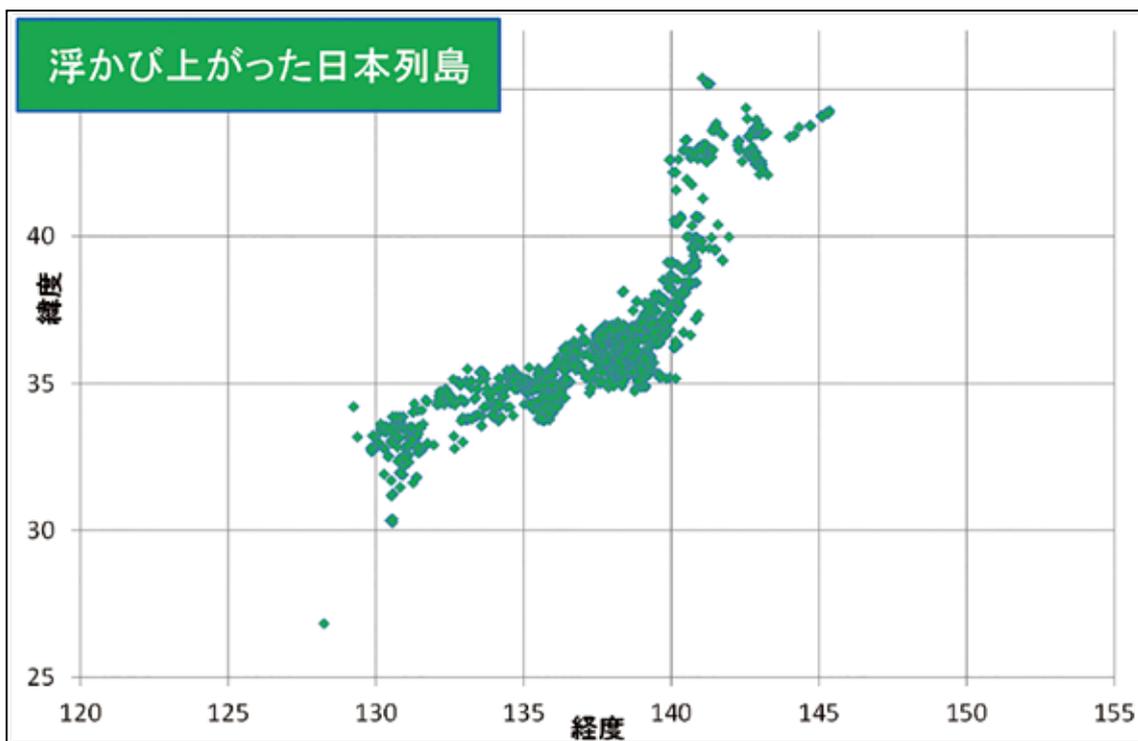
2) 事故から浮かび上がった日本列島

データベースの分析作業の中で、「事故発生場所の分析」があります。従来は、報告された発生位置情報から緯度・経度情報を読み取り、その値を日本地図上にプ

ロットした「事故マップ」として報告してまいりました。今回、是非とも紹介したい図面は、地図を使用せず緯度・経度座標に直接、事故発生場所データをプロットすると、驚くことに、日本列島が浮かび上がってくることです。我が国の約70%が山域と言われています。事故は、アルプス地域など特定高山域で多く発生していますが、登ることができる場所があるのなら、海岸線から平野部、丘陵部、低中山域にも一様に分散して発生しており、登山者の活動幅の広さを物語ると考えています。

現在、データベースに登録された事故者数は3,717人となりました。これだけの登録数になると、様々な事故要因に関する分析は安定し、より精度の高い、信頼性のある分析情報を提供する事ができます。事故を経験された多くの人々が、「他の方が、二度と同じような事故を起こさない」思いで、事故調査に協力頂いた成果と言えます。今後とも、事故調査にご理解をいただき、もし、不幸にも事故を経験された場合は、事故調査に、ご協力下さいますよう、御願い申し上げます。

(記 遭難対策常任委員 青山千彰)



令和元(2019)年度定時総会報告

6月16日(日)に岸記念体育会館で令和元(2019)年度定時総会が開催された。正会員57名(本人出席54名、代理出席3名)及び理事25名、監事3名が出席。

同席者は、顧問6名、専門委員会委員長8名、顧問弁護士1名、次期役員候補者5名、次年度正会員候補者1名。

総会に先立ち八木原会長から「先日の警察庁の発表では山岳遭難が相変わらず右肩上がりが増え続けている。登山界全体で対策を講じていかななくてはならない。高校山岳部の数は減り続けているが、部員数はここ10年間増え続けており71%増とのことである。この生徒たちが卒業後も登山を継続するような環境整備が急務である。JMSCAも改革を進めているが、未だ緒にいたばかり。皆さんからご意見をいただいて改革を推進していきたい。」と挨拶。

続いて、定款第16条に定めるところにより、八木原囿明会長が議長となり、定款第18条第1項に定める定足数の充足を確認して、本会議の開会を宣言した。次いで、定款第20条第1項に基づき、議事録署名人として八木原囿明議長、水島彰治常務理事、多田修正会員を選任して議案の審議に入った。

1. 議 事

(1)議案第1号 平成30年度事業報告について

小野寺事務局長が資料により議案説明を行った。
議案第1号は、異議なく賛成57、反対0で承認。

(2)議案第2号 平成30年度収支決算報告及び監事監査報告について

相良財政担当理事が資料により議案説明を行い、その後、古屋監事から監事監査報告及び監査所見の報告があった。

公益会計の黒字分については、次年度に開催するIFS C世界選手権事業において赤字が見込まれるので、それに充当する補正予算を計上することが提案された。質疑では、未収金が6,700万円とは、黒字倒産を心配するなどがあった。

議案第2号は、異議なく賛成57、反対0で承認。

(3)議案第3号 正会員の除名について

合田常務理事が資料により議案説明を行った。
議案第3号は、賛成53、反対0、棄権4で、2/3以上の賛成(定款第18条第2項)により対象者の除名が承認された。

(4)議案第4号 定款の変更(事務所設置場所の変更)

について

小野寺事務局長が資料により議案説明を行った。
議案第4号は、異議なく賛成57、反対0で承認。

(5)議案第5号 理事・監事の選任について

理事会より推薦のあった役員候補者の理事候補者23名(別表)について推薦理由が述べられた後、一人ずつ承認が諮られ、何れも賛成57、反対0で承認された。

続いて理事会から推薦のあった監事候補者2名(別表)について推薦理由が述べられ、承認が諮られた。何れも異議なく賛成57、反対0で承認された。

2. 報 告

(1)報告1号 2019年度事業計画及び収支予算について

小野寺事務局長が資料により説明を行った。
「山の日」記念事業の助成金復活が求められた。

(2)報告第2号 平成30年度山岳共済会事業報告及び収支決算報告について

尾形専務理事が資料により説明を行った。その後、古屋監事より監査報告があった。

続いて2019年度山岳共済会事業計画及び収支予算について、尾形専務理事から説明があった。

(3)報告第3号 創立60周年記念事業募金について

尾形専務理事が資料に基づき説明を行った。

(4)報告第4号 2019年IFS C総会及び世界選手権について

村岡常務理事から資料に基づき報告があった。

(5)報告第5号 オリンピックに向けての準備状況について

安井強化委員長から資料により報告があった。

(6)報告第6号 第58回全日本登山大会について

岐阜岳連・小木曾昭文会長から案内があった。

3. その他

(1)JMSCA magazine創刊号の発刊について

フリーペーパー、1万部、加盟団体、クライミングジム、協賛各社に配布。

以上、15時10分閉会。



60周年募金協力者ご芳名

(2019年6月30日現在、敬称略)

10口：秋田県山岳連盟、兵庫県山岳連盟

2口：相良忠磨

(総額：320口 1,600,000円)

令和元年度第1回理事会報告

令和元年5月26日(日)(10時30分～16時00分)に東京渋谷の岸記念体育会館で令和元年度理事会(第1回)が開催された。

出席者は、理事21名(欠席4名、内3名は第2回コンバインドジャパンカップ大会への出張)、監事3名。

開会に先立ち、去る5月17日にロシア・カムチャツカ州のカーメン峰で遭難死した澤田実国際委員長に黙祷を捧げご冥福をお祈りした。

八木原会長挨拶の後、議長、議事録署名人を定款に則り選出して、議事に入った。

1. 議事

①【議案第1号】平成30年度事業報告の承認

②【議案第2号】平成30年度収支決算報告の承認と監事監査報告及び監査所見について

議案第1号と議案第2号は、関連議案のため、続けて提案説明が行われ、議案第1号は小野寺事務局長、議案第2号は相良常務理事がそれぞれ説明を行い、その後、古屋監事から監査報告と監査所見を述べられた。

議案第1号は、賛成20名、反対0名で可決された。続いて議案第2号は、公益会計黒字分をIFSCスポーツクライミング世界選手権の特定資産に充当する収支決算書を総会に提出する条件で、賛成20名、反対0名で可決された。

③【議案第3号】正会員の除名と入会承認について

合田常務理事から資料に基づいて説明され、対象者の除名を総会に提出することが諮られ、賛成20、反対0で可決された。

次に小野寺事務局長より以下の正会員の入退会の承認が諮られ、何れも賛成20、反対0で可決された。

入会者：稲田春男氏(新潟)、湯浅誠二氏(京都)、
小宮山稔氏(山梨)

退会者：森庄一氏(新潟)、四方宗和氏(京都)、
秋山教之氏(山梨)

④【議案第4号】定款の改定について

(事務所設置場所の変更)

事務所移転に伴う定款の一部改訂が説明され、まず、事務所移転先が東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号で、移転日が令和元(2019)年5月28日とすることが諮られ、賛成20、反対0で承認された。

次いで、定款第2条を渋谷区から新宿区に改定する定款改定案を総会に提出することが諮られ、賛成20、反対0で可決された。

⑤【議案第5号】諸規程の改定について

a. 組織管理運営規程の改定について

クライミング国際委員会を設置する案が諮られ、賛成20、反対0で承認された。

b. 資金管理規程(新規程)について

小野寺事務局長より提案説明があり、一部修正で賛成20、反対0で承認された。

c. 会計処理規程の改定について

第31条の「物品の範囲」の改定案が諮られ、賛成20、反対0で承認された。

⑥【議案第6号】定時総会の招集と議案について

小野寺事務局長より資料に基づき提案があり、一部文言訂正で、賛成20、反対0で承認された。

⑦【議案第7号】次期役員候補者(一部)推薦について

次期役員候補者選考委員会から答申のあった古林喜明氏(山口)の推薦が賛成20、反対0で可決された。

⑧【議案第8号】夏山リーダー関連規定集の承認について

UIAA公認については、UIAAとの齟齬があり、今年度は公認申請をしないで、夏山リード制度をスタートさせるとの説明があり、本議案は報告事項とされた。

2. 報告

①【報告第1号】平成30年度山岳共済会事業報告及び収支決算報告について

尾形専務理事から資料に基づいて報告があった。
続いて内藤監事から資料に基づいて監査報告があっ

②【報告第2号】創立60周年記念事業募金について

尾形専務理事から資料に基づいて報告があった。

③【報告第3号】2019年IFSC総会と世界選手権について

小野寺常務理事から資料に基づいて報告があった。

④【報告第4号】オリンピックに向けての準備状況

合田常務理事から資料に基づいて選手選考について報告があった。

⑤【報告第5号】業務執行理事職務執行報告(3月～4月)について

各業務執行理事から職務執行報告が行われた。

3. その他

①午後一番で日本パラクライミング協会(JPCA)の佐藤建会長からJPCAの現状と覚書(パラクライミング世界選手権の支援等)等について説明していただいた。

(※理事会規定第9条第2項により議事採決に議長は含まず)

以上、16時00分に閉会。

令和元年度第2回理事会報告

令和元年度定時総会終了後、同会場にて15時30分から理事会(第2回)が開催された。出席者は理事22名(欠席・山本譲理事)、監事2名の計24名。理事会の定足数(定款第33条)は12名(23名の1/2)なので、理事会は成立。

1. 会長選出

まず初めに代表理事(会長)の選出が諮られ、八木原 囿明氏が満場一致で選任された。

続いて会長に選任された八木原会長が、「改めまして、任期も3年目となりました。あと1期精一杯頑張ります。オリンピックや創立60周年もあります。大きな変わり目と考えています。役員も大幅に変わりました。皆さんと一緒に大変革期を乗り越えて、今までにないJMSCAにしていければと思っております。」と挨拶。定款第32条により、会長が議長を務め、議事録署名人を定款第34条により会長及び監事を指名して議事に入った。

2. 議事

【議案第1号】業務執行理事の互選について

尾形理事より、次期役員候補者選考委員会から会長以外の業務執行理事については、亀山健太郎副会長、平山ユージ副会長、丸誠一郎副会長、尾形好雄専務理事、小野寺齊・水島彰治・合田雄治郎常務理事の答申がなされているので、まずこの案を審議してはどうか、との提案があった。

議長がこの業務執行理事候補者案を諮り、満場一致で承認された。

【議案第2号】正会員の退会と入会の承認について

小野寺事務局長から提案説明があった。

退会：高橋時夫氏(岩手)、永山義春氏(富山)

入会：吉田春彦氏(岩手)、山田信明氏(富山)

議案第2号は、満場一致で承認。

【議案第3号】参与の推薦について

岩手県山岳・スポーツクライミング協会から推薦のあった高橋時夫氏を参与に推薦することが満場一致で承認された。

【議案第4号】JOC派遣委員の推薦について

選手強化本部委員：合田雄治郎常務理事、総務本部委員：尾形好雄専務理事、日本ユニバーシアード委員：水村信二理事の派遣が満場一致で承認された。

【議案第5号】(一財)製品安全協会専門部会派遣委員の推薦について

指導委員会の堤信夫専門委員を派遣することが満場一致で承認。

【議案第6号】今後の理事会運営について

小野寺常務理事より資料に基づいて提案があった。

提案通りで承認され、7月、8月の理事会日程が決められた。

3. 報告

【報告第1号】静岡・山梨両県からの「富士山安全登山に向けた要望書」について

小野寺常務理事から資料に基づいて報告があった。

4. その他

- ①UIAAの次期理事に丸副会長を推薦することになった。
- ②議事録は、各理事に提出後、4日以内に修正がなければ各委員会に流す。
- ③規程・規定・規則等改定の承認について理事会・常務理事会マターの要検討。

以上、17時10分に閉会を宣言して終了した。
平成30年度事業報告は次号に掲載致します。

令和元(2019)年度 公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会 役員名簿・担務 (令和元(2019)年6月16日)			
【理 事】			
No.	氏 名	役職	担 務
1	八木原 囿明	会 長	
2	亀山 健太郎	副 会 長	会長職務代理者・総括(財務、人事、渉外)
3	平山 ユージ	副 会 長	SC(全体、普及、国体)、五輪推進
4	丸 誠一郎	副 会 長	総務・登山(組織・管理、法務、指導、登山普及、遭対、自然保護)
5	尾形 好雄	専務理事	総務・登山・SC各部、マーケ・予算・60周年記念・共済会
6	小野寺 齊	常務理事	総務部長・事務局長(総務部統括、国際)
7	水島 彰治	常務理事	登山部長(登山部統括、広報)
8	合田雄治郎	常務理事	SC部長(全体統括、アスリート、普及)、ガバナンス、AD、五輪推進
9	相良 忠麿	理 事	総務(財務、共済会)
10	蛭田 伸一	理 事	登山(指導)
11	町田 幸男	理 事	登山(遭対、登山医科学)
12	唐木 真澄	理 事	登山(指導、山岳スキー)
13	安藤 武典	理 事	登山(指導、自然保護)
14	前田 善彦	理 事	登山(登山普及、高体連)
15	古賀 英年	理 事	登山(指導、遭対、登山普及)
16	村岡 正己	理 事	SC(競技)
17	小日向 徹	理 事	SC(国際、強化)
18	山本 譲	理 事	SC(技術、競技)
19	古林 喜明	理 事	SC(強化、技術)
20	六角 智之	理 事	SC(医科学)、AD
21	水村 信二	理 事	SC(国体、国際)
22	村上 美智子	理 事	SC(普及、国体)
23	山口 純子	理 事	ガバナンス
【監 事】			
1	中島 正喜	監 事	(税理士)
2	古屋 寿隆	監 事	(山 梨)

平成30年度 収支決算書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

貸借対照表

(単位：円)

科目	当年度 (H30/3/31)	前年度 (H29/3/31)	差異
I 資産の部			
1 流動資産			
現金・預貯金・郵便振替	56,385,088	45,120,804	11,264,284
未収金	67,624,223	19,576,352	48,047,871
前払費用	5,360,520	4,814,285	546,235
流動資産合計	129,369,831	69,511,441	59,858,390
2 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産定期預金	30,000,000	30,000,000	0
基本財産合計	30,000,000	30,000,000	0
(2) 特定資産			
国民スポーツ登山振興基金	15,495,367	15,495,367	0
退職給付引当資産	3,594,098	3,594,098	0
創立60周年記念事業積立資産	1,460,006	0	1,460,006
特定資産合計	20,549,471	19,089,465	1,460,006
基本財産・特定資産合計	50,549,471	49,089,465	1,460,006
(3) その他固定資産			
機械器具	0	29,700	△29,700
什器備品	1	1	0
ソフトウェア	2,136,096	1,769,982	366,114
電話加入権	43,989	43,989	0
その他固定資産合計	2,180,086	1,843,672	336,414
固定資産合計	52,729,557	50,933,137	1,796,420
資産合計	182,099,388	120,444,578	61,654,810
II 負債の部			
1 流動負債			
未払費用	62,573,590	18,192,647	44,380,943
前受金	1,147,420	1,168,000	△20,580
預り金	1,025,385	1,767,780	△742,395
仮受金	2,700	0	2,700
未払消費税等	2,926,700	3,501,300	△574,600
賞与引当金	2,090,000	2,020,000	70,000
流動負債合計	69,765,795	26,649,727	43,116,068
2 固定負債			
退職給付引当金	5,206,000	4,601,000	605,000
固定負債合計	5,206,000	4,601,000	605,000
負債合計	74,971,795	31,250,727	43,721,068
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
受取寄附金	1,460,006	0	1,460,006
指定正味財産合計	31,460,006	30,000,000	1,460,006
(うち基本財産への充当額)	(30,000,000)	(30,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(1,460,006)	(0)	(1,460,006)
2 一般正味財産			
一般正味財産合計	75,667,587	59,193,851	16,473,736
(うち特定資産への充当額)	(15,495,367)	(15,495,367)	(0)
正味財産合計	107,127,593	89,193,851	17,933,742
負債及び正味財産合計	182,099,388	120,444,578	61,654,810

〈平成30年度協賛各社及び助成金法人等一覧〉

KDDI(株)、三井不動産(株)、住友商事(株)、オリエンタルバイオ(株)、日本航空(株)、久光製薬(株)、牛乳石鹼共進社(株)、キョーリン製薬ホールディングス(株)、八海醸造(株)、日新火災海上保険(株)、ニチハ(株)、(株)ワールドウイン、東商アソシエート(株)、三井住友海上火災保険(株)、(株)VOYAGE GROUP、(株)シンカ、(株)牛走運送、(公財)日本オリンピック委員会、(独)日本スポーツ振興センター(スポーツ振興基金助成金、スポーツ振興くじ助成金)、(一財)上月財団、岩手県、盛岡市、鳥取県、倉吉市(敬称略、順不同)

正味財産増減計算書

科目	当年度	前年度	差異
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	3,000	3,000	△ 3,000
基本財産受取利息	3,000	3,000	△ 3,000
特定資産運用益	1,905	1,730	△ 1,905
特定資産受取利息	1,905	1,730	△ 1,905
受取会費	12,999,000	13,320,000	△ 321,000
正会員受取会費	2,792,000	2,640,000	152,000
加盟分担金受取会費	8,135,000	8,512,000	△ 377,000
賛助会員受取会費(個人・団体)	2,072,000	2,168,000	△ 96,000
事業収益	305,484,154	220,898,972	84,585,182
共済会委託事業収入	40,000,000	40,000,000	0
登録料	11,506,000	10,841,000	665,000
競技選手登録料	10,359,000	9,248,000	1,111,000
諸登録料	1,147,000	1,593,000	△ 446,000
参加者負担金	9,346,484	10,870,800	△ 1,524,316
講習会参加料	4,112,778	4,350,500	△ 237,722
諸参加料	5,233,706	6,520,300	△ 1,286,594
協賛金	200,657,368	125,839,984	74,817,384
広告料	6,372,242	3,551,600	2,820,642
競技会収入	35,390,446	27,301,960	8,088,486
選手参加料	15,082,278	17,456,860	△ 2,374,582
入場料	13,988,544	9,845,100	4,143,444
諸収入	6,319,624	0	6,319,624
その他事業収益	2,211,614	2,493,628	△ 282,014
受取委託金	2,000,000	2,900,000	△ 900,000
日本スポーツ振興センター委託金	2,000,000	2,900,000	△ 900,000
受取補助金等	163,578,452	78,245,229	85,333,223
日本オリンピック委員会助成金	80,630,451	50,946,668	29,683,783
国民体育大会補助金	6,780,201	7,853,638	△ 1,073,437
日本スポーツ協会助成金	2,247,800	1,202,000	1,045,800
日本スポーツ振興くじ助成金	16,557,000	5,702,000	10,855,000
日本スポーツ振興基金助成金	57,363,000	11,200,000	46,163,000
日本ワールドゲームズ協会助成金	0	1,340,923	△ 1,340,923
受取負担金等	28,367,010	950,000	27,417,010
受取負担金	28,367,010	950,000	27,417,010
受取寄附金等	6,650,000	9,619,399	△ 2,969,399
受取寄附金	6,650,000	9,619,399	△ 2,969,399
雑収益	2,168	2,237	△ 69
受取利息	2,168	2,237	△ 69
雑収入	0	0	0
経常収益計	519,085,689	325,940,567	193,145,122
(2) 経常費用			
事業費	477,661,116	293,414,792	184,246,324
給料手当	22,598,864	17,632,281	4,966,583
臨時雇賃金	8,553,250	4,791,405	3,761,845
通勤費	1,236,298	1,353,116	△ 116,818
退職給付費用	544,500	442,151	102,349
賞与引当金繰入	1,881,000	1,757,400	123,600
福利厚生費	2,544,136	2,080,085	464,051
会議費	3,639,260	1,395,729	2,243,531
旅費交通費	140,885,587	88,235,695	52,649,892
通信運搬費	6,372,817	3,860,088	2,512,729
減価償却費	700,418	616,252	84,166
消耗品費	4,745,299	3,275,073	1,470,226
印刷製本費	14,882,292	10,074,702	4,807,590
広告宣伝費	6,301,800	0	6,301,800
光熱水料費	155,489	120,422	35,067
賃借・リース料	34,220,859	13,273,030	20,947,829
保険料	4,372,166	2,384,218	1,987,948
諸謝金	21,114,080	22,328,931	△ 1,214,851
租税公課	6,248,070	4,903,416	1,344,654
大会施設費	139,941,905	73,263,767	66,678,138
支払負担金	17,806,165	16,906,438	899,727
支払助成金及び事業交付金	2,280,000	2,942,000	△ 662,000
委託費	9,743,880	8,968,802	775,078
参加登録料	3,093,066	2,186,000	907,066
現地サポート費	93,610	0	93,610
大会記念品費	1,487,042	861,132	625,910
大会賞金	10,174,455	3,252,029	6,922,426
報奨・奨励金	6,200,000	5,720,000	480,000
I T関連費	5,298,281	0	5,298,281
雑費	546,527	790,630	△ 244,103
管理費	24,950,837	27,605,991	△ 2,655,154
役員報酬	90,000	120,000	△ 30,000
給料手当	2,510,985	3,111,579	△ 600,594
通勤費	137,366	202,190	△ 64,824
退職給付費用	60,500	66,069	△ 5,569
賞与引当金繰入	209,000	262,600	△ 53,600
福利厚生費	281,132	310,817	△ 29,685
会議費	2,838,498	1,889,984	948,514
旅費交通費	7,410,614	6,247,657	1,162,957
通信運搬費	71,410	111,669	△ 40,259
減価償却費	43,168	92,084	△ 48,916
消耗品費	91,327	142,903	△ 51,576
印刷製本費	939,307	2,497,896	△ 1,558,589
光熱水料費	17,277	17,994	△ 717
賃借・リース料	279,144	148,309	130,835
支払会費	2,176,973	2,167,730	9,243
保険料	64,322	30,693	33,629
諸謝金	0	127,272	△ 127,272
租税公課	694,230	676,984	17,246
支払負担金及び還付金	3,426,000	4,088,900	△ 662,900
交際費	278,219	446,775	△ 168,556
支払報酬	795,941	762,205	33,736
手数料	2,112,641	1,283,752	828,889
I T関連費	80,393	1,260,114	△ 1,179,721
60周年事業引当金繰入	0	0	0
雑費	342,390	1,539,815	△ 1,197,425
経常費用計	502,611,953	321,020,783	181,591,170
当期経常増減額	16,473,736	4,919,784	11,553,952
2. 経常外増減の部			
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	16,473,736	4,919,784	11,553,952
一般正味財産期首残高	59,193,851	54,274,067	4,919,784
一般正味財産期末残高	75,667,587	59,193,851	16,473,736
II 指定正味財産増減の部			
受取寄附金等	1,460,000	0	1,460,000
特定資産運用益	6	0	6
当期指定正味財産増減額	1,460,006	0	1,460,006
指定正味財産期首残高	30,000,000	30,000,000	0
指定正味財産期末残高	31,460,006	30,000,000	1,460,006
III 正味財産期末残高	107,127,593	89,193,851	17,933,742

※指定正味財産増減の部の受取寄附金は創立60周年記念事業募金

山から遭難事故を減らそう!!

『ストップ・ザ・1000』

キャンペーン

警察庁発表の山岳遭難事故データによると、2018（平成30）年の山岳遭難の発生件数は2,661件、遭難者総数3,129人、死者・行方不明者342人、負傷者1,201人、無事救出1,586人で、統計に残る1961（昭和36）年以降で最も高い数値となりました。態様別では道迷いが1,187人（37.9%）と突出しています。

遭難者総数は、約20年間、右肩上がり傾向が続いています。これでは登山行為が、社会悪とみなされかねません。

そこで、私たち登山者が団結して、1996（平成8）年代の**遭難者総数1,000人台**に戻す“減遭難”に取り組みませんか。遭難とは言い難い道迷いが1,187人もいるのです。これを無くすだけでも3,129人から2,000人以下にまで減少させることができます。

日本では、かつて年間の交通事故死者が1万人を超えていました。最高は1970年の16,765人です。それが昨年（2018年）は3,532人にまで79%減少しています。1970年の数値のわずか21%です。確かに交通事故死者の減少は、法規制、車両改良などの要因が大きいと思いますが、「交通事故死者1万人キャンペーン」が奏功したのも事実です。やればできるのです。一緒に“減遭難”に取り組みましょう。

どんな荒海でも優秀な船長の下では難破しない、と言われます。同様に、登山でも優れたリーダーの下では遭難を回避できます。（公社）日本山岳・スポーツクライミング協会（JMSCA）では、本年度より身近なリーダーを養成する「夏山リーダー養成講習会」を全国で展開し、“減遭難”に積極的に取り組んで参ります。

JMSCA

JMSCA

令和元（2019）年度
6月常務理事会報告

日時 2019年6月11日（火）18時～21時
場所 Japan Sport Olympic Square
3階10号会議室

出席者 八木原会長、亀山、高橋、伊藤、平山の各副会長、尾形専務理事、小野寺、水島、相良、村岡、合田、小日向常務理事、仙石、蛭田、町田の各常務理事、中島、古屋監事（17名中17名出席）

会議冒頭で「スポーツクライミングの市場調査」報告を博報堂DYメディアパートナーズの佐治由佳部長と吉野琢生氏に行ってもらった。

1. 議事

(1)平成31年度5月常務理事会議事録の承認について（事前送付済）

(2)令和元年第1回理事会議事録の承認について

上記2議案は、異議なく承認された。

(3)2018年度公益法人黒字分の世界選手権に対する特定資産充当について提案通り承認された。

(4)海外登山交流の派遣メンバーの承認について

カザフスタン（石川貴大氏）、キルギス（鈴木将太氏）の派遣が承認された。

(5)正会員入会承認について

吉田春彦氏（岩手）、山田信明氏（富山）の正会員入会を理事会に諮ることが承認された。

(6)参与の推薦について

岩手県山岳・スポーツクライミング協会から推薦された高橋時夫氏を参与として理事会に推薦することが承認された。

(7)スピード種目規程改定

一部文言訂正の上、承認された。

(8)世界選手権壁工事契約について

競技施設壁の工事区分の説明があった。競技大会については予算管理サポートス

タッフを設けて予算管理していくことを承認。

(9)山岳レスキュー（無雪期）講習会開催要項について

提案通り承認された。

(10)公認夏山リーダー関係諸規定の承認について

提案について文言訂正等を行い、後日MLで回議して承認を諮ることになった。

2. 報告

(1)令和元年度5月月次決算報告

相良常務理事から資料に基づいて報告があった。

(3)LWC派遣選手について

(4)JC報告について

(5)オリンピック審判候補者について

上記(3)～(5)については村岡常務理事が資料に基づいて説明を行った。

(6)公認大会の報告

福井、和歌山岳連の申請を承認。

(7)国体競技施設規程の改定

JSP O国体委員会に対してリード競技

壁に係る規定改定の要望書を提出。

3. 指導員・審判員 検定結果報告

- (1)山岳コーチ2認定
浦川陽子(愛媛)
- (2)山岳A級主任検定員認定
①市川謙(長野) ②加藤陽子(北海道)
③植木孝(栃木) ④瀬藤武(埼玉)
上記5名が承認された。

4. 後援報告、協賛等の依頼について

- (1)福井県山岳連盟「チベット・カイルスとネパール・ムスタン報告」後援依頼
上記を承認された。

5. 専門委員会動静 5月

- (1)指導委員会
5月13日(月) 岸記念体育会館 12名出席
ア) 夏山リーダー検定会について
4月20,21日に千葉県山岳連盟にて、初めての夏山リーダー資格の検定会が開催され、5人が受験した。
- (2)広報委員会
5月23日(木) 岸記念体育会館 3名出席
ア) 議事
①登山月報編集について
603号(6月号)～612号(3月号)
②第3種郵便の変更申請について
③JMSCA magazine
フリーペーパー1万部、年2回発行
④創立60周年記念誌編纂について
2021年1月16日(土)発刊予定
⑤その他
HPコンテンツの改良→アウトソーシング
- (3)共済委員会
5月23日(木) 岸記念体育会館 7名出席
ア) 議事
①平成30年度事業報告及び収支決算報告について
②2019年度加入状況について
4月始期の加入者、41,190人(前年比160人減)、5月15日では、46,284人(前年比1,316人減)
③加入促進事業について
④山岳共済会新規事業について
・山岳遭難防止啓発事業「音声入りアニメ動画のメディア展開」について

- ⑤その他
a. 保険料の改訂について
b. 商品ラインナップの検討について
c. 山岳パトロール等への助成金検討
- (4)強化委員会
5月23日(木)分室 8名出席
ア) 協議
①今後のスケジュールについて
②日本代表及びユース日本代表選考について
③2019年以降の選手強化の方向性について
④今後の強化委員会の見直しについて
- イ) 報告
①東京2020オリンピック選考基準を発表(5月21日 記者会見)
②国民体育大会のルール改正について
③SC部正副委員長会議
- ウ) その他
・スピード練習中のヒヤリハット事故報告
- (5)遭対委員会
5月29日(木)スカイプ 16名出席
ア) UIAA公認申請について
現状報告(青山委員)
①講習内容にロープワークが含まれていない件について
②試験日数について
③UIAA認証試験の延期について
- (6)指導委員会
5月13日(月) 岸体育会館 12名出席 1名委任
ア) 新指導者制度について
①令和元(2019)年度の公認山岳コーチ1,2の検定基準について
②令和元(2019)年度の公認スポーツクライミングコーチ1,2,3,4の検定基準について
③JMSCAのHP内の申請書類(ダウンロード版)を確認、整理。
イ) 夏山リーダー検定会について
①4月20～21日に千葉県山岳連盟にて、初めての夏山リーダー資格の検定会を実施し、5人受験。
- (7)SC医科学委員会
5月24日(金) 葉市立青葉病院 診療局長室 19:00～20:30 4名出席
ア) 競技会医務担当割り当て
(1)コンバインドジャパンカップ
(2)IFSC世界選手権
(3)JOCジュニアオリンピック大会

- (4)リードWC印西大会
・(2),(3)に関しては継続検討
イ) 各業務担当委員報告
(1)救護担当(代:六角)
a. FISE:報告
b. BYC:報告
(2)学術担当(代:六角)
a. 学会、論文報告
b. 講習会予定
c. BMI関連報告(六角、樋口委員)
・3月LYCにてBMI実測と研修を実施
・基準値については検討継続
ウ) JSPPO公認スポーツドクター受講候補について
・1名推薦
4. 2020年オリンピック関連
(1)進捗報告(樋口委員)
・5月31日に医務担当者TV会議
エ) その他
・ジャパンツアーについて

6. その他の重要事項

- (5月10日～6月9日)
- (1)2020アジア選手権実行委員会 5月13日(月) 於:盛岡市 八木原会長、高橋副会長、村岡常務理事
- (2)監査 5月15日(木)～16日(木) 於:岸記念体育会館 内藤・中島・古屋監事、尾形専務理事、相良・小野寺常務理事
- (3)Japan Sport Olympic Square竣工式典・祝賀会 5月16日(木) 於:JSOS新会館 八木原会長
- (4)ボルダリングユース日本選手権倉吉大会 5月18日(土)～19日(日) 於:鳥取県倉吉市 八木原会長 村岡常務理事
- (5)東京2020オリンピック選手選考基準の記者会見 5月21日(火) 於:NTC 尾形専務理事、合田常務理事、安井強化委員長
- (6)IOC調整委員会との夕食会 5月22日(水) 於:東京會館 尾形専務理事
- (7)倫理・AD研修会 5月25日(土) 於:仙台市 多賀啓ガバナンス委員
- (8)第2回コンバインドジャパンカップ 5月25日(土)～26日(日) 於:西条市 平山副会長、村岡・小日向常務理事
- (9)令和元年度理事会(第1回) 5月26日(日) 於:岸記念体育会館 八木原会長他
- (10)事務局引越し 5月28日(火) 於:JSOS事務局総出
- (11)WCH2019実行委員会 5月28日(火) 於:エスフォルタアリーナ八王子 平山副会長、村岡常務理事
- (12)(一財)全国山の日協議会理事会・評議員会 5月29日(水) 於:弘済会館 八木原会長、尾形専務理事
- (13)全国指導委員長会議 6月1日(土)～2日(日) 於:海員会館 亀山副会長、蛭田常務理事
- (14)UAAA理事会 6月1日(土)～5日(木) 於:台北 八木原会長、小野寺常務理事
- (15)リードWC印西大会実行委員会 6月3日(月) 於:印西市松山下運動公園体

寄贈図書

雑誌	Club alpino italiano	「Montagne360」giugno2019
	(株)山と溪谷社	「ROCK & SNOW」2019 Jun 084
会報	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.865
	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」No.1011
	日本スポーツ振興センター	「スポーツニュース」Vol.107「フェアプレイニュース」Vol.107
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第624号
	日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.357
	健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.494
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第433号
	やまびこ山想会	「やまびこ」第183号
	日本山岳会山梨支部	「甲斐山岳」第11号
	A-SPORTS	「ACTIS」6月号
	日本防火・防災協会	「地域防災」No.26
	東京野歩路会	「山嶺」No.1072
日本ヒマラヤ協会	「HIMALAYA」No.489	
(公社)日本山岳会	「山」No.889	

育館 尾形専務理事、村岡常務理事
 (16) JOC総務本部第1回本部会
 6月4日(火) 於: JSOS14階
 尾形常務理事
 (17) 第74回茨城国体リハーサル大会
 6月8日(土)~9日(日) 於: 茨城県鉾田市
 八木原会長、村岡常務理事、西原国体委員長

表紙のこぼれ

ラチェンからゼム溪谷を廻り、鬱蒼としたシャクナゲの森を抜けると正面にゼム氷河舌端の押し出しが現れる。注意深く左岸のアブレーション・バレーの上に目をやると、氷雪に輝く雪嶺が眺められる。これがテント・ピーク(7,365m)だ。

本誌591号の表紙写真もテント・ピークだが、ゼム氷河から見ると破風型で、まさしくテント・ピークの名称に相応しい山容だ。

1939年、スイス人でミュンヘン在住のE.グロープとドイツ人のL.シュマデラー、H.パイダールの3人は、5月26日にネパール・ピーク北東峰に初登頂した後、29日にはテント・ピークにも初登頂した。

(写真撮影者 尾形好雄)

編集後記

令和元年度定時総会で提案通り理事・監事が承認され新体制がスタートした。当面の課題は、8月に開催されるIFSC世界選手権、来年の東京2020年オリンピック、創立60周年記念行事、毎年右肩上がりに増加している遭難件数の減遭難対策(「ストップ・ザ・1000」キャンペーン、夏山リーダー制度)等ではないであろうか。会員加盟団体等の協力を得て、JMSCAが公益社団法人として広く大衆に認知されるよう準備し成功に導けたらと思う。

(広報担当 水島彰治)

一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒252-0184
 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 ☎042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-mail kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

NPO法人 **北丹沢山岳センター**
 神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 道志村トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- 上野原秋山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

登山月報 第604号

定価 110円(送料別)
 予約年間 1,300円(送料共)
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)

発行日 令和元年7月15日
 発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
 Japan Sport Olympic Square 807
 公益社団法人
 日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-5843-1631
 F A X 03-5843-1635

山岳 雑誌

岳人

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」

2019
8
August
No.866

特集 湿原と溪谷をめぐる山旅

■ 登山の醍醐味・自然の魅力を堪能
 ■ 自然の雄偉さ、感動、感動の瞬間、感動の瞬間
 ■ 自然の雄偉さ、感動の瞬間、感動の瞬間

8月号
発売中

【特集】湿原と溪谷をめぐる山旅

★モンベルのウェブサイト
 全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格815円(+税)

年間購読がおすすすめです。

購読割引
送料無料
限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊
年間購読なら12冊

~~9,780円~~ → **8,965円**

(+税) (+税)

1年間で815円
1冊分無料!

年間購読特典 岳人オリジナルグッズをプレゼント!

岳人 ミニワレット (2個セット)

サイズ: 9×10cm
 ※カラーはお選びいただけません

さらにはじめてお申し込みの方に

岳人ピンバッジ

提携施設「岳人の湯」で提示すると入浴料割引などの優待が受けられます。

年間購読のお申し込み WEB <https://www.gakujin.jp/> 全国のモンベルストアでも受付中! お問い合わせ モンベルポスト ☎0120-982-682 / TEL 06-6538-5797 ※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

14

あなたを守る。
あしたを作る。
三井住友海上

損害保険と聞いて、
なにを思い浮かべますか？

ケガ、災害、事故…日々の中で起こりうるリスクをカバーする。それは私たち三井住友海上の重要な任務ですが、すべてではありません。たとえば同じ自動車保険でも、暮らしの変化や自動車の進化を見つめて改善を続けること、宇宙開発や再生医療など、まだ世界にない保険を新しく作ることで社会の前進をサポートすることも、とても大切な役割です。変わらない一日に寄り添い、より豊かな明日を実現したい。だから私たちは、守ることと作ること、その両方を繰り返しながら前へ歩み続けます。

みつ い すみ とも かい じょう
三井住友海上
時空保険
探査部
Space-time Insurance
Exploration Department

人類にとっての
損害保険の
必要性を調査。

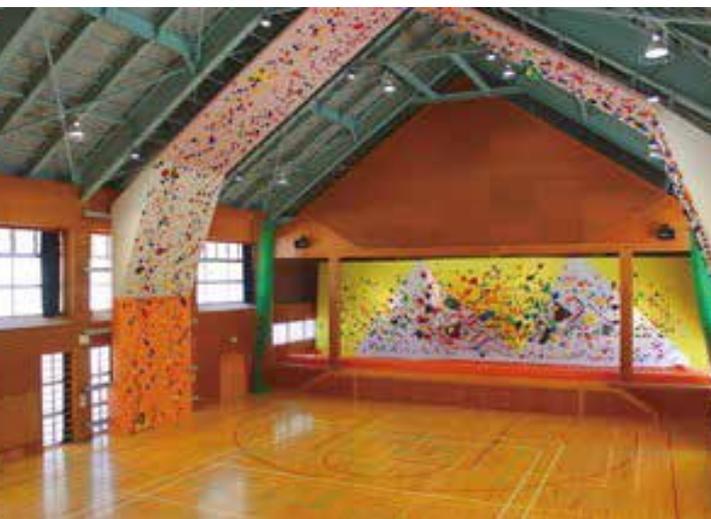
時空を超える
ゲート。

社員証を
かざせば
タイムワープ。

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



山岳保険の加入は 登山者のマナーです

あなたの山岳保険は大丈夫ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難捜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院費用
- 傷害通院費用
- 傷害手術費用
- 個人賠償責任

日山協 山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会
携帯サイト (www.jma-sangaku.or.jp)



WEBからもお申込みいただけます (www.sangakukyousai.com)